＼稲沢市民病院／
病院News.
inazawa municipal hospital news
vol.77 2023.October

“転倒骨折センター”発信！

骨粗鬆症（こつそしょうしょう）特集。vol.2

転倒骨折センターは市民の皆さまに支えられ昨年の10月3日の開設から1年が経過しました。今月号は、当センターの概要と高齢化に伴い増えている骨粗鬆症と密接に関係する「脆弱性骨折」についてお話しします。

第2回公開講座『最先端の弁膜症治療』開催報告

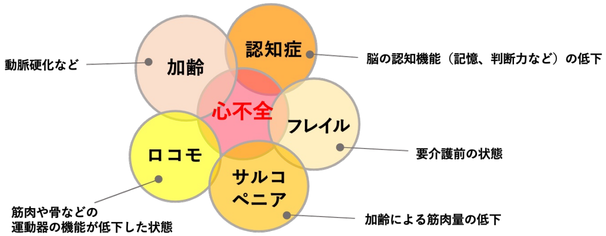
令和5年度｜第2回公開講座『最先端の弁膜症治療』が9月30日に開催されました。

今回の講演会は、名古屋大学大学院医学研究科｜心臓外科教授の六鹿先生をお迎えしてお話を伺いました。経皮的僧帽弁クリップ術という体への負担が少ない低侵襲の手術などの紹介や適切な治療の選択のために多職種が介入する『ハートチーム』の強みなどをお話しされました。

心臓弁膜症とは弁に障害が起き、弁が狭窄したり、開きが悪くなり血液が逆流する病気です。日本人の死因の上位である心疾患は、高血圧、心筋梗塞、弁膜症 などが原因となり心不全を引き起こします。

心不全とは、心臓のポンプ機能が低下して、働かなくなった状態です。心不全の主な原因は、加齢や運動不足、不健康な食事です。こんな症状ありませんか？『最近、息切れがする。』『動悸がする。』『外出が億劫になった。』など加齢のせいにして気づかない場合があります。心当たりのある方は、かかりつけ医などに相談してください。

当院の循環器内科部長｜野本憲一郎医師の講演は、心不全は、認知症やフレイルなどの因子が原因となりやすい。また、心不全は様々な因子が複雑に絡み合うため、当院の循環器医師、看護師、理学療法士、管理栄養士、薬剤師がチーム一丸となって介入する『ハートチーム』は、心不全を全人的に捉える上で重要な役割を果たす、といった内容でした。



骨粗鬆症(こつそしょうしょう)外来

完全予約制｜　第１・第３木曜　午前　９：00～12：00

当院以外の医療機関ですでに骨粗鬆症の治療を行っている方は、主治医にご相談ください。紹介状があれば地域医療連携室で予約を取ります。
受診を希望される方は内科受付で予約をしてください。

予約・お問合せ｜稲沢市民病院　内科外来（14：00～16：00）
TEL　0587（32）2111

稲沢市民病院ニュース
発行日　令和5年10月1日
発行部数　500部
発行元　稲沢市民病院広報委員会
電話　0587-32-2111
Fax　0587-32-2151
E-mail hospital@city.inazawa.aichi.jp

広報誌バックナンバー

“転倒骨折センター”発信！

骨粗鬆症（こつそしょうしょう）

転倒骨折センターの概要と共に
脆弱性骨折についてお話しします。

転倒骨折センター｜センター長
整形外科部長
須田　光　医師

Q1 転倒骨折センターとは？

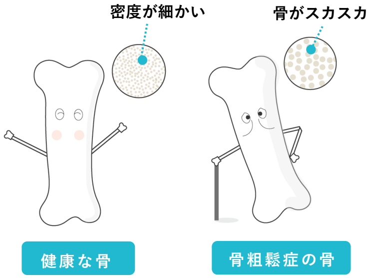
A.　骨折に関する治療、アフターケア、予防の3つが受けられます。

骨折の原因は、転倒や事故などがありますが、高齢者の場合、骨粗鬆症が背景にあるケースが多いです。その場合、背骨の骨折・股関節の骨折
手首の骨折・肩の骨折が多くみられます。

Q2 骨粗鬆症とは？

A. 骨がもろくなり、骨折しやすくなる病気です。

骨粗鬆症は、体積あたりの骨密度が減る病気です。
その結果、骨折をしやすくなる病気です。特に閉経後の女性がなりやすいと言われています。



Q3 くしゃみで骨折？

A. 脆弱性骨折（ぜいじゃくせいこっせつ）と言って骨粗鬆症が原因で起こる骨折です。高齢化により増えています。

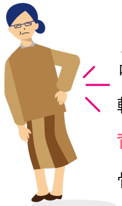
例えば、日常のちょっとした動作で脊椎圧迫骨折が起きることがあります。

背骨（脊椎）がつぶれる＝脊椎の骨折 ▶ **背中が縮み、曲がる** ▶ **寝たきりにつながる**

- 骨粗鬆症のある骨は、『重いものを持つ。』『くしゃみをする。』などちょっとした日常生活の動作で簡単につぶれてしまうことがあります。
- 脊椎圧迫骨折は、起き上がろうとしたり、動こうとするときに痛みがでるのが特徴です。
- 安静にしていると痛みが少ないので、『年のせいだから仕方ない。』と見過ごしやすいです。
- 骨折をそのままにしておくと、背中が丸まって胸やけや逆流性食道炎を起こしやすくなったり徐々に動けなくなり、最終的には寝たきりになる場合もあります。

例えば、この女性の場合・・・

「私、転んだ覚えないわ・・・。」



８０代女性

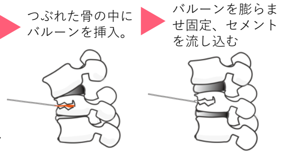
吐き気や**食欲低下**
転んだり、打った記憶はない
背部痛で起きあがれなくなり入院
骨密度測定、採血にて**骨粗鬆症**あり

診断名｜胸椎椎体骨折

治療

- 骨折部を安静に保つ
- コルセット装着、骨への負担を軽減
- 痛み止めの内服、骨粗鬆症薬の使用
- **手術（経皮的椎体形成術｜BKP）**

全身麻酔で手術時間は1時間ほどで翌日から
痛みに合わせて歩くことができます。
痛みの緩和に効果があります。



- リハビリテーション
- 栄養管理

【治療を受ける環境】

開放感のある2人部屋です。ベッドは体動センサー付きベッドで、患者さんの睡眠の質の向上を目指しています。
同じフロア内にもリハビリ室があり、ご家族やスタッフもリハビリの状況がよくわかります。
もちろん、総合的なリハビリ室もあります。デイケアでは、季節に合った造形で手先を使ったリハビリができます。
スタッフが、さまざまなレクリエーション企画を考えて行なっています。

アフターケア

治療後の退院に向けて調整を行います。
例えば、ご自宅の場合は、リハビリスタッフを中心に患者さんのご自宅を訪問して手すりや段差などの環境調整を行います。並行して自宅での生活に向けて、リハビリの目標設定を患者さん、ご家族と一緒に行います。施設やリハビリ病院へ退院する場合も施設スタッフと連携を取りながら継続して住み慣れた地域で生活できるようアフターケアをしていきます。

予防

骨粗鬆症のある高齢者の患者さんは、治療後も継続して再骨折予防のために骨粗鬆症の注射や内服をします。日常生活でも骨の固定のために２～３ヶ月はコルセットの装着が必要となるため装着の際のアドバイスやトラブルを回避するための指導を行います。また、脆弱性骨折は日常生活のちょっとした動作で起こるため、上下の作業が多い洗濯干しや畑作業などは正しい姿勢で作業できる環境を一緒に考えるなど、再骨折の予防がとても重要となります。